



事前

西洋美術史ゼミ

第11回

バロック美術・ロココ美術

発表者 あまずん

発表者について

あまずん

Twitter : @quii_w (メイン)

@amazuunsc (サブ)

理系の大学生 (数学専攻) をやっています。

近代以降の美術史や思想史、現代美術について
興味があります。



ゼミについて

- 週1回程度で美術出版社「増補新装 カラー版 西洋美術史」を一章ずつ読み進め、内容をまとめ発表します。
- また、高校世界史に沿う形で当時の出来事についても説明します。
- そのため、世界史と美術史を同時に学ぶことができるため、歴史が好きな方も美術が好きな方も学びを深めることができます。



はじめに

- このスライドは第十一回の事前資料です！
- 近代化によってあまりに多くの出来事が短い期間で起こるようになり、世界史と美術史を同時に扱うにはどうしても尺が足りなくなりました。そのため、世界史が重い場合はこのように事前資料を配布して、発表では美術史メインで話すことにしようと思います。
- とはいえ発表内でも軽くは触れるつもりなので、無理して読む必要はありません。
- しかし、作業量がかなり増えるため、美術史の資料が間に合わなかった場合は世界史をやると思います……。

前回の内容

- 宗教的な普遍的権力が動揺し、経済的・軍事的な重要性から**主権国家が形成**され始めた。
- そのような状況下で新教と旧教の対立による**三十年戦争**が始まり、次第に大規模な戦争に発展していった。
- **カラヴァッジョ**の登場により、劇的で動的な**バロック美術**の扉が開いた。



カラヴァッジョ 《聖マタイの召命》

全体の概略

- 三十年戦争が終わったあと、複数の主権国家が互いに国府の増大を目指して**重商主義政策**をとり、植民地をめぐってヨーロッパ内外で争いを繰り返した。
- そして、18世紀のヨーロッパでは海外との繋がりがより緊密になり、その過程で**近代化**も進んだ。この過程で、上から君主主導の改革をおこなう啓蒙専制君主が出現した。
- **三角貿易**が栄え、アメリカ・ヨーロッパ・アフリカの各地域はこれにより密接に結びつけられた。

本日の内容

世界史について

- 近世ヨーロッパ世界の展開
- ヨーロッパ諸国の海外進出

美術について

- バロック美術
- ロココ美術

本日の内容

- **世界史：近世ヨーロッパ世界の展開**
- 世界史：ヨーロッパ諸国の海外進出
- 美術史：バロック美術（続）
- 美術史：ロココ美術

近世ヨーロッパ世界の展開

- 構成は次の通りです。
 - ① 重商主義政策
 - ② イギリス革命
 - ③ イギリス議会政治
 - ④ プロイセンとオーストリア
 - ⑤ 北方戦争とロシア

重商主義政策

- 近世の、特に「17世紀の危機（=三十年戦争前の凶作、不況など）」を経た時期のヨーロッパ各国では、国家が経済に介入する**重商主義政策**がとられた。
- 具体的には、金や銀の獲得を目指す**重金主義**や、輸出入の収支を改善しようとする**貿易差額主義**、自国の産業を保護する**産業保護主義**などが行われた。



イングランドの重商主義的財政家
トーマス・グレシャム

イギリス革命(1)

- イギリスでは1642年に**イギリス革命**が起こった。
- これは市民革命の一つで、この革命によってイギリスは**絶対王政を打倒し**、世界に先駆けて近代市民社会（**共和制**）を確立した。
- この革命はピューリタン（カルヴァン派のグループ）が大きな役割を果たしたため、**ピューリタン革命**とも呼ばれる。



ジョン・ギルバート
《1645年のネイズビーの戦いの後》

イギリス革命(2)

- この革命の背景として、ステュアート家の**専制政治**があった。
- イギリスでは13世紀ごろから**身分制議会**が開かれ、国民と国王との間での対立を調整していた（第六回でこの時代について書きました）。
- しかし、**ジェームズ1世**（在位1603～25）は**王権神授説**を唱え、議会を無視して新税を取り立てたり少数の大商人に独占権を与えていた。



ジェームズ1世

イギリス革命(3)

- 彼に続くチャールズ一世も同様に専制政治を継続したため、国民の不满は募るばかりであった。
- そんな中開かれた議会は**王党派**と**議会派**で対立を深め、1642年に内戦が起こった。これがイギリス革命の発端となった。
- **クロムウェル**はピューリタンを中心とする独立派（議会派の一派）を率いて革命を達成し、共和制をうちたてた。



クロムウェル

イギリス議会政治(1)

- イギリス革命後、クロムウェルは**独裁体制**を敷いて国民の不満が高まり、彼の死後に王族の**チャールズ2世**が国王として迎えられた。これを**王政復古**という。
- しかし、彼は専制的な姿勢をとり、それに議会も対抗した。
- 現在のイギリス政党の前身である、**トーリ党**と**ホイッグ党**が生まれたのもこの頃である。



チャールズ2世

イギリス議会政治(2)

- 1668年にチャールズ2世の弟の**ジェームズ二世**が王位を継いだ。カトリックと絶対王政の復活に努めた。
- それに対抗して、議会は新教徒の**メアリ**とその夫の**ウィレム**を王に招いた。
- 抗戦を諦めたジェームズ2世は亡命し、議会は決議した「**権利の宣言** (→**権利の章典**)」を受け入れた。これを**名誉革命**と呼び、ここにイギリスの**立憲王政**が確立することとなる。



ウィレム3世

イギリス議会政治(3)

- **アン女王**の時代にイギリスとスコットランドは併合され、**大ブリテン王国**が成立した。
- 彼女の死後、**ハノーヴァー朝**が起こるが、この時代に内閣は国王にではなく議会に対して責任を負うという**責任内閣制**が形成された。これにより、政治制度が安定するとともに、国債制度もまた整備され、イギリスは繁栄していった。



アン女王

プロイセンとオーストリア(1)

- 三十年戦争後、ドイツでは**プロイセン**が急速に成長した。
- **フリードリヒ1世**（在位1701～13）の時代、彼は軍事増強や官僚組織の整備を行って**絶対王政の基礎**を作った。
- また、**フリードリヒ2世**はオーストリアとの戦争に勝利し勢力を拡大し、近代化政策を推し進めた。



フリードリヒ1世

プロイセンとオーストリア(2)

- オーストリアでは、**マリア・テレジア**がプロイセンと戦う過程において**近代的改革**を進めた。
- また、その子**ヨーゼフ2世**も信仰の自由や貴族の免税特権廃止などの改革を進めたが、貴族層や異民族の反抗にあって改革は挫折した。



マリア・テレジア

北方戦争とロシア

- ロシアでは、**ピョートル1世**（在位1682～1725）が自身も視察するなどして**西欧化政策**を推進した。そのほかに彼は北方戦争でスウェーデンを破りバルト海に進出した。
- また、啓蒙専制君主の**エカチェリーナ2世**（在位1762～96）はピョートルの事業を受け継ぎ、近代化を進めた。そして、当時の農民反乱の反動で**農奴制を強化**した。



エカチェリーナ2世

本日の内容

- 世界史：近世ヨーロッパ世界の展開
- **世界史：ヨーロッパ諸国の海外進出**
- 美術史：バロック美術（続）
- 美術史：ロココ美術

ヨーロッパ諸国の海外進出

- 構成は以下の通りです。
 - ① アジア市場への参入
 - ② アメリカにおける植民活動
 - ③ 三角貿易

アジア市場への参入

- ヨーロッパ諸国がアジアに進出し始めた16世紀頃、すでにアジアでは貿易圏が確立していた。ヨーロッパ諸国のアジア進出は**アジア内での貿易に参入する**という形で行われたのである。
- 各国は**東インド会社**を設立するなどして貿易したが、領土進出を目的としたアジア進出は後世の出来事であることに注意が必要である。



コンピュータが読み取れる情報は提供されていませんが、Mkillだと推定されます（著作権の主張に基づく） - Tokaido Museum (?), Hakone, Japan, コンピュータが読み取れる情報は提供されていませんが、投稿者自身による著作物だと推定されます（著作権の主張に基づく）, CC 表示 2.5, <https://commons.wikimedia.org/w/index.php?curid=651042>による

火縄銃

アメリカにおける植民活動

- この時代、ヨーロッパ諸国はアメリカに進出し、**植民活動**を行った。
- ポルトガルがブラジルを、スペインが中南米を領有するなどし、金や銀の採掘や、**プランテーション農業**、毛皮取引などを行った。



インカ帝国の滅亡

三角貿易

- アメリカ大陸および西インド諸島のプランテーションで酷使されていたインディオが激減すると、**アフリカからの黒人奴隷**が使用されていた、
- 奴隷貿易は、ヨーロッパから武器や雑貨をアフリカに、アフリカから黒人奴隷をアメリカに、アメリカから砂糖・タバコ・コーヒー・綿花を輸出するという**三角貿易**の一環として行われた。



By SimonP at en.wikipedia - Modification made by SimonP.
Transferred from en.wikipedia, CC BY-SA 3.0,
<https://commons.wikimedia.org/w/index.php?curid=2547506>

三角貿易の図式